

♪「ゼンザーズ&音楽センター三多摩教室秋季合宿」ぶらり訪問記♪

日時 2011年10月22日(土)～23日(日)
会場 高尾の森わくわくビレッジ(八王子市)

主催者より声を掛けていただいたので取材を兼ねて参加してみました。当初「ゼンザーズ」(元三多摩教室の生徒で、全員高齢者のため、現在は独立し三多摩教室生のサポートを得て独自の練習をしているサークル)を取材する予定でしたが、参加できなかった方がいたのと合宿のユニークさが参考になったので、今回は楽しかった合宿の様子を中心に紹介いたします。



この施設は旧都立八王子高陵高校を改装したもので青少年優先のようです。(写真はパンフレットより転写)ボーイスカウトらしき子ども達の団体、また、音楽室の一番大きな部屋では高校生と思われる吹奏楽部の合宿でしょうか生徒達が大勢練習していました。

我々もさっそく練習開始(参加者9名)

一コマ1時間のスケジュールで午前は9時から12時までの3コマ。昼食後は午後1時から5時までの4コマ。夕食後も6時から9時まで合奏や歌伴など思い思いに練習です。高齢者にはかなりきついのではと思いましたが、ゼンザーズの方たちの体力に感心しました。このようなスケジュールはゼンザーズからの要求だそうです。

練習の仕方は普段一緒に練習している生徒同士でペアを組むのですが、1コマずつ相手を替えてお互いに聴き合って音を確認めたり、おしゃべりしながらの練習です。私(筆者)も仲

間に入り一緒に練習しました。

最初の方は「指が震えるけどよろしく」と挨拶があったのでお年をお聞きしたら78歳とおっしゃっていました。後から趣味で社交ダンスをなさっていると聞きましたが、背筋が伸び姿勢がいいのでとても若々しく見えます。「真珠とりのタンゴ」に挑戦していました。ベースソロがあり同じテンポで左手と合わせるのに苦労していました。夜の交流会で2年かけて仕上げるのを目標に楽しんでいることを知りました。

私とペアを組んだもう一人の方は先ほどの方とは対照的で、日頃高齢者の食事会などで歌の伴奏をするようになったので、2年もかけて1曲なんていうのは選べない、僕は「どんぐりころころ」を三つ覚えた方がいいという行動的な考えの方で「水色のワルツ」の独奏の練習もしましたが、「母さんの歌」、「琵琶湖周航の歌」、「リンゴの歌」、「みかんの花咲く丘」、「瀬戸の花嫁」など歌伴の練習に多く時間を割いていました。

また、手の空いた方たちは荷物置き場の部屋を使って歌伴の練習や、合奏「灯」、「薔薇のタンゴ」のパート練習をしていました。翌日は最後に全員で合奏の合わせをして終わりました。 ↓ 歌伴の練習の様子



教室の代表者Yさんは・・・他の教室の方と交流したい。一緒に合宿をしてみようという構想は今年2月頃から持っていて教室で話しを出した所、「そんな上手な人を呼ぶんじゃ俺行かないぞ」という声もあり、今年もいつものよう

に自分たちだけでやろうかと思ったそうです。そこでいろいろな団体の演奏を聴きに行ったそうです。教室の合宿は7～8年続いているけど「やっぱり自分たちだけでなあなあでやっているのは駄目だなあ」と思って、春頃から下地作りを始め、9月4日の関東アコーディオン演奏交流会の打ち上げの席で実行委員の一人に話をしたら「いいですよ」と返事がもらえたので、もう一人ぐらい欲しいよねと教室の仲間が見つけてくれて二人になったことで今回はじめての企画が実現したとおっしゃっていました。

夜の交流会も大変面白くいろいろと紹介したいのですが、紙面の都合もありアコーディオンとの出会いに絞って紹介します。

Iさんとアコーディオンとの出会い・・・学生時代にフォークダンス(ブルガリアなどの踊り)をやっていて、そのダンスをやるときにCDを使うのもあるけど歌伴と同じで、やっぱり生の音楽に合わせて踊るのが本場で、実際に演奏をやる愛好家が日本にはいるんだそうです。バグパイプが上手な人とか、で、自分もそのブルガリアの曲をアコーディオンで弾きたいなあと思ったのがIさんの動機でした。

Nさんの場合(夫婦ともに習っている)・・・最初は奥さんが始めた。下の息子が早稲田のオーケストラでヴァイオリンを弾いていて、その発表会のときになぜかアコーディオンを演奏してくれた人がいて。その演奏を聴いて私もやりたいと(ピアノをやっていたのでわりと親しみがあつたようです)で、インターネットで探したら立川に住んでいる人のブログに出会いその人の紹介で三多摩教室を知ったそうです。

旦那さんの方は、IT関係の会社で役員をしていたけどリーマンショック以来厳しくなり、身体を壊しそうなくらい毎日働いていたので、転職しようと6月に退職したので現在専業主夫

だそうです。

奥さんは運転できないので国分寺の練習会場までアッシー君して、最初は、俺は関係ないということで、隅っこで本を読んだりしていたけれど、「せっかく来ているんだからやりなさい」と。自分は音楽やったこと無いけど死ぬまでに何か1個ぐらい、仕事ばかりじゃとIさんの弾くボタンアコにあこがれるようになっていたところ、Iさんから使っていないのがあるからと憧れのボタンアコを借りて練習するようになった。そんな出会いでまだ2ヶ月だそうです。



↑ 交流会の様子

Mさんの場合・・・35年前、地元の国分寺駅の近くに谷口楽器がありウィンドウに飾ってあるアコーディオンをよく見に行っていて、ピアノは何オクターブもあるけどこんな狭いところで音楽が弾けるんだからこれならいいなと思って当時5万円でエキセルシャアの303を買った(一坪の値段と同じだった)そして、ピアノ教室に習いに行ったらピアノに合わせて弾くようにいわれてアコーディオンを教えてくれるわけではなかったので半年ぐらいで辞めてしまい、それから30年押し入れに入れたままだったそうです。

オーバーホールに出して使っているけどどこも取り替えずに済んだそうです。ピアノ教室の看板にアコーディオンって書いてあるのに、医者看板と同じだね。一番最初に書いてあるのが本当らしく、内科って書いてあれば内科で。それで看板にはピアノの次にアコーディオンと書いてあつたのだそうです。(乙津:記)

